

キノボリトタテグモ

クモ目トタテグモ科

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

Ummidia fragaria (Doenitz)

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

コケむした古木の幹上や岩上に巣をつくり生息するが、全国的に生息個体が減少しつつある。

形態

体長が雌で9~11mm、雄で6~8mm、全身黒紫色。液浸にすると頭胸部は褐色に変わる。

国内分布

南西諸島、九州、四国、本州。本州では太平洋側は茨城県、日本海側は新潟県が各既知分布北限である。

県内分布

金沢市兼六園内での記録があるだけ（畑守ほか、1997）であるが、県内には未発見の生息箇所がまだいくつかあると思われる。

生態

樹木や岩の表面にコケや樹皮くずを貼り付けた袋状の住居をつくり、入口に円形で片開きの蓋をつける。住居の入口は下向きが多い。住居の大きさは成熟した雌で径1cm、長さ3cmほどであり、切り開くとピーナッツの皮を開いた感じである。中にあるクモは付近を昆虫などの小動物が通ると飛び出して捕らえる。越冬期に調査すると、親と同居している小さな幼体、独立した幼体、亜成体、成体というようにいろいろな成長段階のものが認められるので、キシノウエトタテグモと同じくかなり長い年数を生きるものと思われる。

生息地の条件

あまり日光の直射しない岩の壁面や古木の多い環境を好む。

生存の危機

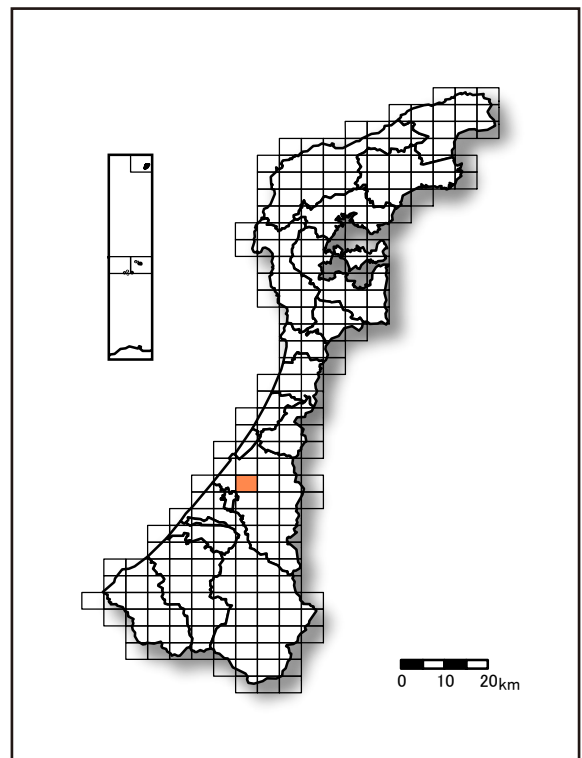
石川県は分布北限に近く、生息に適した環境も少ないので生息密度は低いと思われ、生息地の環境保護に注意しないと消失する恐れがある。（A）

参考文献

千国安之輔 2008. 写真日本クモ類大図鑑. pp306. 偕成社. 東京.
畑守有紀・新海明・上田俊穂 1997. クモタケの全国分布調査結果. Kishidaia. 72: 34-47.



写真提供者: 谷川明男



県内の分布